

A.研究目的

家庭用化学製品には多種多様な化学物質が含まれており、製品によっては、使用に際して充分製品表示を確認しないと健康被害発生が予想される。

JPIC は、厚生労働省医薬局審査管理課化学物質安全対策室の「家庭用品に係る健康被害病院モニター報告」¹⁾のなかの「家庭用品等が原因と考えられる吸入事故等に関する報告」を担当している。平成13年度の報告では、家庭用化学製品の中でも、殺虫剤類に由来する事故（吸入及び眼の被害に限定）の種別が133件(21.6%)ともっとも多くなっている。製品形態別ではスプレー式の製品による事故が多く、中でも殺虫剤ではエアゾール剤、内容物が霧状となり空中へ拡散する点でスプレー剤と同様なくん煙剤などによる健康被害が発生しやすい。そして、使用方法や製品の特性について正確に把握していれば事故の発生を防ぐことのできた事例が多数認められているものの、健康被害とそれを防止する製品表示との関連は、未だ詳細な調査が行われていない。

また、伝染病の媒介となるハエなどの幼虫を駆除するうじ殺し剤は便所の水洗化により利用は減少していると思われるが、うじ殺し剤を飲食物の容器に移し替える不適切な保管が行われた結果、食品と誤り摂取してしまう事故が報告されている²⁾。しかし、不適切な保管による事故とそれを防止する製品表示の関連については検討されていない。

上記の背景から、本年度は衛生害虫または不快害虫用殺虫剤のうち、部屋を立ち入り禁止の密室とし殺虫成分を煙霧状の微細粒子として空中に拡散させて害虫を駆除する“くん煙剤と全量噴射型エアゾール”、害虫に直接噴射などして駆除する“エアゾール剤（全量噴射型エアゾールを除く）”、“うじ殺し剤”の3製品群を対象とし、使用に際した事故状況の実態と製品表示関連の調査を行うこととした。

本研究の最終目的は、JPIC に問い合わせられた事故発生当事者からの生の声をひろいあげ、調査検討を行い、事故の実態を反映させた健康被害を防止する製品表示のあり方を提案することである。

B.研究方法

2001年 JPIC に問い合わせられた家庭用殺虫剤類4,548件の中からくん煙剤・全量噴射型エアゾール50件、エアゾール剤146件、うじ殺し剤72件を抽出し、事故発生状況の検討を行った。

事故状況を整理するため、以下に示す6種類に分類した。これらの分類を表1に示す。分類は、1)“誤使用”：薬剤を製品の指示どおりに使用しなかった、2)“通常使用”：薬剤を指示どおりに使用したにもかかわらず事故となった、3)“アクシデント”：漏出・飛散など、4)“認識・判断困難”：乳幼児・高齢者などの認識や判断が難しい層による不慮の事故、5)“意図的曝露”：自殺企図など、6)“状況不明”とした。さらに、“誤使用”は、①用途誤り：薬剤を本来の目的と異なる用途に使用、②用法誤り：薬剤の使用方法が不適切、③誤認：薬剤を何か別の薬剤と誤ったり、薬剤の存在に気づかず使用、の3種類に分類した。上記分類を用いて、使用に際して起きた“誤使用”や“通常使用”の事故を中心に事故発生状況の詳細な解析を行った。

製品試買（くん煙剤・全量噴射型エアゾール13製品、エアゾール剤12製品、うじ殺し剤5製品）を行い、事故防止のための表示について製品の記載内容と法的規制事項の規定とを検討した。

なお、家庭用殺虫剤では対象とする害虫別に法的規制事項が異なる。ハエ・蚊・ゴキブリなどを対象とする衛生害虫用殺虫剤については薬事法、日本家庭用殺虫剤工業会による医薬品殺虫剤等の添付文書（製品表示）作成のガイドライン（自主基準）が、アリ、ハチなどを対象とする不快害虫用殺虫剤については生活害虫防除剤協議会による家庭用生活害虫防除剤の自主基準がある。

上記の解析に基づき、JPIC に問い合わせられた事故発生当事者（一般市民）を対象とするアンケート調査用紙を作成した。

予備的電話アンケート調査をくん煙剤・全量噴射型エアゾールについて行った。2002年のくん煙剤・全量噴射型エアゾールの問い合わせ74件のうち、一般市民からの問い合わせ25件を抽出した。誤使用（用途誤り）11件、通常使用4件のうち、事故発生当事者13名を調査対象とし、5名（38%）から回答を得た。

C.研究結果

1.JPIC 問い合わせ状況の解析

1)くん煙剤・全量噴射型エアゾール

くん煙剤はくん煙タイプ（有効成分と燃焼発熱基剤からなり熱で有効成分を空中へ揮散させる）と加熱蒸散タイプ（酸化カルシウムと水の反応熱により発泡剤を分解させ殺虫成分を蒸散させる）との2つに大別される。全量噴射型エアゾールは、有効成分、噴射剤（ジメチルエーテル、LPガスなど）を耐圧容器に充填したものである。

表2にくん煙剤・全量噴射型エアゾール50件の状況別問い合わせ件数を示す。用法誤り24件(48%)、用途誤り1件(2%)、通常使用10件(20%)であり、使用に際しての事故が35件(70%)と多かった。このほか、アクシデント2件(4%)、認識・判断困難9件(18%)、不明4件(8%)があった。

用法誤りは、①くん煙中の部屋に入室した“くん煙中に入室”、②食品・食器を適切に収納せず殺虫剤の煙が食品・食器などに直接付着した“食品・食器類近辺で使用”、③くん煙中に自ら入室はしなかったがくん煙をした近くにおいて曝露した“ヒト・動物近辺で使用”、④“過量使用”、⑤“換気不良”、⑥薬剤が残った状態で廃棄しようとした結果薬剤に曝露した“薬剤残存”の6種類に分類した。用法誤り24件の中では、主に、“くん煙中に入室”8件(33%)、“食品・食器類近辺で使用”7件(29%)、“ヒト・動物近辺で使用”6例(25%)が多かった。このほか、“過量使用”、“換気不良”、“薬剤残存”の事例が各1件(4%)あった。

健康被害は、頭痛、嘔吐、咳、舌・口内のしびれなどであった。有症率（以下で用いる有症率は受信までに何らかの症状があった割合である）は、“くん煙中に入室”75%、“ヒト・動物近辺で使用”67%で、全体の62%より高い傾向であった。

表3に代表事例を示す。

殺虫成分は、ピレスロイド剤、ピレスロイド+有機リン剤またはカーバメート剤などであった。

2)エアゾール剤

ここでは全量噴射型エアゾールを除くエアゾール剤を取り上げる。エアゾール剤は有効成分、噴射剤（ジメチルエーテル、LPガスなど）を耐圧容器に充填したものである。

表4にエアゾール剤146件(衛生害虫用殺虫剤104件、不快害虫用殺虫剤42件)の状況別問い合わせ件数を示す。用法誤りが36件(25%)をしめ、用途誤り4件(3%)、通常使用3件(2%)と合わせると、使用に際しての事故が43件(29%)みられた。このほか、アクシデント2件(1%)、認識・判断困難86件(59%)、意図的曝露7件(5%)、不明8件(5%)があった。

用法誤りは、①“ヒト・動物近辺で使用”、②“過量使用”、③“食品・食器類近辺で使用”、④殺虫剤使用中に風下において曝露した“風下”、⑤“噴射方向誤り”、⑥“換気不良”、⑦殺虫剤使用後その場所に掃除機をかけ曝露した“掃除機使用”、⑧“用法未確認”、⑨殺虫剤が残った状態で廃棄しようとして曝露した“薬剤残存”、⑩使用者が殺虫剤使用を周知しなかったため使用者以外が曝露された“薬剤使用を周知せず”、⑪“その他”の11種類に分類した。用法誤り36件の中では、主に、“ヒト・動物近辺で使用”12件(33%)、“過量使用”9件(25%)、が多かった。このほか、“食品・食器類近辺で使用”や“風下”各3件(8%)などがあった。

健康被害は咳、喉の痛み、めまい、しびれなどであった。有症率は“ヒト・動物近辺で使用”58%、“過量使用”78%で、全体の34%より高い傾向であった。

表5に代表事例を示す。

殺虫成分はピレスロイド剤単剤、ピレスロイド+有機リン剤またはカーバメート剤、カーバメート剤単剤などであった。

3)うじ殺し剤

うじ殺し剤は伝染病の媒介となるハエなどの幼虫を駆除する防疫用殺虫剤である。有機塩素系殺虫剤のオルトジクロロベンゼン含有製品、有機リン剤含有製品、オルトジクロロベンゼンや有機リン剤、クレゾール含有製品などがある。液剤が多い。

表6にうじ殺し剤72件の状況別問い合わせ件数を示す。用法誤り6件(8%)、誤認2件(3%)、通常使用2件(3%)、アクシデント2件(3%)、認識・判断困難17件(24%)、意図的曝露31件(43%)、不明12件(17%)であった。意図的曝露、認識・判断困難が多く見られるが、用法誤りもみられた。

用法誤りは、①うじ殺し剤を飲食物容器に移し替え食品と間違いやすい状態となった“飲食物容器で保管”、②食品近辺にう

じ殺し剤を保管し食品と間違いやすい状態となった“飲食物近辺に保管”、③適切に保護具を使用しなかった“保護具不適切”の3種類に分類した。用法誤り6件の中では、“飲食物容器で保管”が4件、“飲食物近辺に保管”が1件あり、飲食物と間違いやすい不適切な保管を行った事例が大半を占めた。

健康被害は、嘔吐、下痢、縮瞳、意識レベル低下などであった。有症率は、不適切な保管事例（“飲食物容器で保管”と“飲食物近辺に保管”）では60%であり、全体の63%と同様高い傾向であった。

表7に代表事例を示す。

殺虫成分は有機塩素系殺虫剤、有機リン剤、有機リン+有機塩素系殺虫剤、有機リン剤またはカーバメート剤+ピレスロイド剤などであった。

2. 試買製品などの解析

1) くん煙剤・全量噴射型エアゾール

衛生害虫用殺虫剤（医薬品）10製品、不快害虫用殺虫剤3製品の計13製品を検討した。表8に試買製品の表示内容について示す。

添付文書・使用説明書は試買した全製品に添付されていた。用法誤りの中で、JPICに問い合わせの多かったのは“くん煙中入室”、“食器・食品類付近で使用”、“ヒト・動物近辺で使用”の事故であるが、自主基準では「煙が出はじめたら、部屋の外へ出ること」、「食品、食器、飼料、おもちゃ、寝具、衣類、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器、電気製品などはあらかじめ他へ移すか、薬剤がかからないようにすること」、「煙を吸い込まないように注意すること」などと記載するよう定められている。試買製品の添付文書・使用説明書には、全製品で「煙が出はじめたら部屋の外へ出ること」、「食品、食器、小児のおもちゃ、ペットの飼料などに煙がかからないようにしてください」「薬剤を吸入しないでください」などの記載があった。しかし、強調表示（色を変える、太文字）、イラストがあったのは、“くん煙中入室”や“ヒト・動物近辺で使用”を防ぐ趣旨の注意点で3製品(23%)、“食品・食器類近辺で使用”を防止する趣旨の注意点で9製品(69%)のみであった。

薬事法・自主基準に定められていないが、

製品で健康被害防止の工夫があったものに、くん煙剤を使用中であることを周囲に周知し誤ってくん煙中の部屋に入室することを防止する「はり紙」があった。資料1にその1例を示す。はり紙入り製品は13製品中2製品(15%)あった。また、全量噴射型エアゾールの中には退出する時間に余裕をもたせる目的でセルフタイマー方式の「遅延噴射ボタン」を採用したものが1製品、手でスイッチを押す製品よりも顔などへの曝露の可能性が少ない足で踏んで始動させる製品が2製品あった。

2) エアゾール剤

衛生害虫用殺虫剤6製品（医薬品1製品、医薬部外品5製品）、不快害虫用殺虫剤6製品の12製品を検討した。表9に試買製品の表示内容について示す。

用法誤りの中でJPICに問い合わせの多かったのは“ヒト・動物近辺で使用”、“過量使用”の事故であるが、自主基準では「人体に向かって噴射しないこと」、「定められた用法・用量を厳守して使用すること」、などと記載するよう定められている。試買製品には、全製品で「人体に向かって噴射しないでください」、「定められた使用法・使用量を守ってください」などの記載があった。しかし、強調表示（色を変える、太文字）、イラストがあったのは“ヒト・動物近辺で使用”を防止する趣旨の注意点で3製品(25%)、“過量使用”を防止する趣旨の注意点で2製品(17%)のみであった。また、ハチ・アブ用エアゾール剤の中に「10m噴射できる。強力噴射のため約45秒で全て噴射される」などの薬剤到達距離が長く、かつ短時間で1缶中の成分が全て放出されるものがあった。このような製品3製品のうち、ヒト・動物近辺で使用”を防ぐ趣旨の注意点が強調されていたのは1製品のみであった。また、散布量のめやすを具体的な数値で示した製品は9製品(75%)のみであった。

健康被害を防止する製品の工夫としては、薬剤が飛び散らず、処理した場所が一目で確認できるムースタイプの製品（アリ用）があった。

3) うじ殺し剤

医薬品2製品、医薬部外品3製品の製品表示を検討した。表10に試買製品の表示内容について示す。

用法誤りの中でJPICに問い合わせの多

かったのは“飲食物容器で保管”、“飲食物近辺に保管”の事故であるが、自主基準では「薬剤を口や眼にいれないこと」などと記載するように定められている。試買製品には全製品で「飲食物などと区別し飲み物とまちがわれないようにすること」、「本品は飲料ではありません」などの記載があった。しかし、強調表示（色を変える、太文字）、イラストのあったのは2製品(40%)のみであった。

4)生活害虫防除剤協議会適合マーク、中毒110番電話番号

上記のほか、生活害虫防除剤協議会適合マーク、中毒110番電話番号の記載について製品本体の表示を確認した。

家庭用不快害虫用殺虫剤の自主基準に基づく「適合マーク」がある。生活害虫防除剤協議会に製品をあらかじめ登録した場合には、「適合マーク」を製品に表示することができる。この適合マークは試買製品(不快害虫用殺虫剤)9製品中6製品にあった。

JPICには、製品に中毒110番の電話番号を掲載する賛助会員制度(名義使用会員)がある。中毒110番の電話番号を製品に掲載することで、急性中毒事故で殺虫剤に曝露された方からの相談に対し、応急処置などを回答することができる。電話番号は試買製品30製品中4製品に記載があった。

3.アンケート調査用紙の作成

上記の検討結果から、くん煙剤・全量噴射型エアゾール、エアゾール剤、うじ殺し剤についてJPICに問い合わせを行った事故発生当事者(一般市民)を対象とする電話アンケート調査用紙を作成した。

1)くん煙剤・全量噴射型エアゾール

資料2にアンケート調査用紙を示す。JPICに問い合わせのあった事故に係る表示a)煙が出はじめたら部屋の外へ出ること、b)飲食物などに薬剤がかからないようにする、c)使用後は換気を行うという趣旨の注意点を読んだかどうかと実際の事故状況を問う設問を設定した。また、健康被害を予想したかや、くん煙中であることを周知させるはり紙が入っている製品を使用したいかなどの有用な健康被害防止策の設問を設定した。

2)エアゾール剤

資料3にアンケート調査用紙を示す。

JPICに問い合わせのあった事故に係る表示a)用法・用量を厳守する、b)人体に向けて噴射しないという趣旨の注意点を読んだかどうかと実際の事故状況を問う設問を設定した。また、健康被害を予想したかや、有用な健康被害防止策の設問を設定した。

3)うじ殺し剤

資料4にアンケート調査用紙を示す。JPICに問い合わせのあった事故に係る表示a)飲食物などと区別し飲み物とまちがわれないようにするという趣旨の注意点を読んだかどうかと実際の事故状況を問う設問を設定した。また、健康被害を予想したかや、有用な健康被害防止策の設問を設定した。

4.予備的電話アンケート調査

2002年のくん煙剤・全量噴射型エアゾールの問い合わせ74件のうち、一般市民からの問い合わせ25件を抽出し、誤使用(用法誤り)11件、通常使用4件のうち、事故発生当事者13名を対象に電話アンケート調査を行い5名(38%)から回答を得た。表11に電話アンケート調査結果を示す。

添付文書・使用説明書を読んだかどうかの設問では、読んで使用したのは5例中4例であった。そのうち事故を予想できなかった2例は、予想外に煙がドアのすきまなどから出てきて曝露した事例であった。添付文書・使用説明書を読んで事故を予想した2例は食品・食器近辺で使用した事例で、いずれも覆いを「うっかり」忘れたために事故が起きた。

消費者の製品表示に対する要望としては、高齢者が数秒間程度噴射して害虫を殺すエアゾール剤の殺虫剤と誤認して全量噴射型エアゾールで虫を殺そうとし、薬剤放出が止まらなくなった事例で、用途を強調して表示してほしいとの要望があった。また、通常使用し、煙がドアなどのすきまから他の部屋に漏れた事例で、「くん煙を行う間は家から出る方がよい」などのより理解しやすい具体的な表示の要望があった。

「はり紙」についての設問では、5例中2例ははり紙入りの製品を使用したいと回答した。

D.考察

JPIC 問い合わせ状況の解析から、用法

誤りでは、くん煙剤・全量噴射型エアゾールは“くん煙中に入室”、“食品・食器類近辺で使用”、“ヒト・動物近辺で使用”が多く、エアゾール剤は、“ヒト・動物近辺で使用”、“過量使用”の事例が多いことが明らかになった。また、うじ殺し剤では“飲食物容器で保管”や“飲食物近辺に保管”の、飲食物と間違いやすい保管を行った事例が今だにあることが明らかとなった。

今回調査を行った 3 製品群の有症率はくん煙剤・全量噴射型エアゾール 62%、エアゾール剤 34%、うじ殺し剤 63%であり、殺虫剤類全体の有症率 21%と比べて高かった。このように健康被害が発生しやすい製品については、使用に際して特に充分使用方法を確認することが大切である。

試買製品表示の検討結果から、使用に際する事故防止には、表示を強調し、気づかせ、読ませることが重要であることが示唆された。特に、薬剤到達距離が長く短時間で 1 缶中の成分が全て噴射されるタイプのエアゾール剤は、表示を強調する方がよいと考えられる。このほか、エアゾール剤には具体的な散布量のめやすの表示がないものもあった。時間（秒）などの具体的な数値のめやすを示すことが過量使用防止に有効と考えられる。

また、製品に健康被害防止の工夫があったものに、くん煙剤を使用中であることを周囲に周知する「はり紙」があった。エアゾール剤では殺虫剤が飛び散りにくいムースタイプの製品があった。健康被害防止にはこのような工夫も大切である。

くん煙剤・全量噴射型エアゾールの電話アンケート調査では、高齢者が使用する際気づきやすいよう、用途を強調表示してほしいとの要望があった。使用する前に表示に気がつくことが健康被害防止にもっとも重要である。また、添付文書・使用説明書を読んだが事故が起きた例（くん煙中ドアのすきまなどから煙が漏れた事例）では、「くん煙を行う間は家から出る方がよい」などと理解しやすいよう、より具体的に記載してほしいと要望があがっている。添付文書・使用説明書を読んだ場合に事故が起こる可能性を具体的に理解できるよう表示することが、健康被害防止に寄与するであろう。

予備的アンケート調査の回答率が低かったのは、JPIC への問い合わせから数ヶ月

後にアンケート調査を行ったためと考えられる。今後は、JPIC 問い合わせから数日後までにアンケート調査を行う予定であるので、回答率は高くなるであろう。

家庭用化学製品のうち殺虫剤に関連する調査については、国民生活センターの「一回使い切りタイプの殺虫剤の室内残存量を調べる」³⁾は、特に殺虫剤の室内残存量の調査を中心に行われた。東京都生活文化局消費生活部の「家庭内で使用される化学物質の安全性などに関する調査」⁴⁾は、使用状況、法律、自主規制、化学物質の安全性などについて調査が行われた。本調査では、これらの調査では行われていなかった使用に際して発生した事故の実態を詳細に検討できた。

JPIC 問い合わせ状況解析、試買商品解析、事故発生当事者へのアンケート調査のプロセスを通して、事故の実態と製品表示の関連をさらに明らかにするために、今後、本年度の 3 製品群についてのアンケート調査を行う。また、同様の手法で防虫剤を解析する。そして健康被害防止に寄与する製品表示のあり方を検討する。

E. 結論

衛生害虫または不快害虫用殺虫剤のうち、くん煙剤・全量噴射型エアゾール、エアゾール剤、うじ殺し剤について調査検討を行った。JPIC 問い合わせ状況解析から主な用法誤りが明らかになった。これらの用法誤りを防止する注意点は試買製品に表示があったものの、強調表示・イラストは一部のみであった。使用に際する事故防止には、表示を強調し、気づかせ、読ませることが重要であることが示唆された。また、理解を助ける具体的表示も健康被害発生防止に有用であろう。JPIC 問い合わせ状況解析、試買商品解析、事故発生当事者へのアンケート調査のプロセスを通して、事故発生と製品表示の関連をさらに明らかにするために、今後、本年度の 3 製品群についてのアンケート調査を行う。

参考文献

- 1)厚生労働省医薬局審査管理課化学物質安全対策室 平成13年度家庭用品に係る健康被害病院モニター報告
- 2)辻川明子, 石沢淳子, 黒木由美子, 他: うじ殺し剤による誤飲事故, 月刊薬事

1994 ; 36 (11) 179-183.

- 3) 国民生活センター:一回使い切りタイプの殺虫剤の室内残存量を調べる. 平成 14 年

http://www.kokusen.go.jp/cgi-bin/byteserver.pl/pdf/n-20020807_1.pdf

- 4) 東京都生活文化局消費生活部:家庭内で使用される化学物質の安全性などに関する調査. 平成 14 年

http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/k_joho/anzen/anzen8_13_1.html

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 事故発生状況の分類

状況分類	事故発生状況
誤使用	<p>薬剤を製品の指示どおりに使用しなかったことにより発生</p> <p>用途誤り 薬剤を本来の目的と異なる用途に使用した</p> <p>用法誤り 薬剤の使用方法が不適切であった</p> <p>誤認 薬剤を何か別の薬剤と誤ったり、薬剤の存在に気づかず使用した</p>
通常使用	<p>薬剤を指示どおりに使用したにもかかわらず事故となった</p>
アクシデント	<p>漏出・飛散など</p>
認識・判断困難	<p>乳幼児・高齢者などの認識や判断が難しい層による不慮の事故</p>
意図的曝露	<p>自殺企図など</p>
状況不明	

表2 くん煙剤・全量噴射型エアゾール 状況別JPIC問い合わせ件数

状況	件
誤使用	25
用法誤り	[24]
くん煙中に入室	(8)
食品・食器類近辺で使用	(7)
ヒト・動物近辺で使用	(6)
過量使用	(1)
換気不良	(1)
薬剤残存(薬剤が残った状態で廃棄)	(1)
用途誤り	[1]
通常使用	10
アクシデント	2
認識・判断困難	9
不明	4
合計	50

表3 くん煙剤・全量噴射型エアゾール JPICで受信した問い合わせの代表事例-1

No.	成分	成分組成	剤型	連絡者	年齢 (人数)	性別	摂取経 路(量)	状況分類	状況など	症状・医療機関での処置など
1	ピレスロ イド剤	フェトリン・メ トキサゾール	全量噴射 型エア ゾール	一般市民	不明	女性	吸入	用法誤り	パソコンに布をかけるのを忘れ、噴 射しすぎて、煙っている部屋に入り、 頭から煙をかぶった。喉の痛みがあ り、うがいした。	受信前:のどがいがらっぽい。 内科へ受診し、血液検査と注射 をした。2日ほどで症状が無くなっ た。
2	不明	不明	不明	一般市民	11ヶ月、 父母(2 人)	男性 (11ヶ 月)	吸入	用法誤り	くん煙しているのと知らずに火事かと思 い、家に入った。煙を吸入した。	受信時:特に症状なし。
3	不明	不明	不明	医療機関	58歳を 含む2人		吸入	用法誤り	殺虫剤をたいている部屋に2人で荷 物を取りに入った。	頭痛、嘔気、嘔吐、体のほてりが あり、受診した。1人は状態が改 善したが、もう1人は症状が改善 しない。
4	ピレスロ イド剤	パルマトリン	全量噴射 型エア ゾール	一般市民	8ヶ月	女性	経口	用法誤り	1週間前に殺虫剤をたいた。その時 に放置してあったお菓子を食べた。	受信時:特に症状はない。
5	ピレスロ イド剤	パルマトリン	全量噴射 型エア ゾール	一般市民	54歳	男性	吸入	用法誤り	全量噴射型エアゾールを隣の部屋 で締め切って使用していた。使用中 の隣の部屋に2時間半いた。	直後より30分~1時間、気分不 良、腹痛、徐脈があった。12時間 後の受信時には、落ち着いてい る。

表3 くん煙剤・全量噴射型エアゾール JPICで受信した問い合わせの代表事例ー2

No.	成分	成分組成	剤型	連絡者	年齢 (人数)	性別	摂取経路 (量)	状況分類	状況など	症状・医療機関での処置など
6	ピレスロイド剤	フェトリン・メトキサジアゾン	くん煙タイプ	一般市民	38歳	女性	経口+吸入 (7缶使用)	用法誤り	くん煙剤7缶をいろいろな部屋で昨日午前中たいた。1時間後マスクしてその部屋を掃除した。舌、口内のしびれを感じた。その夜は回復し、平気だった。今日、まだ掃除をしていなかった部屋を掃除を始めた。首にタオルをまいて掃除をした。このタオルで口をふさいだりしたので、細かいくん煙剤の粒子が口に入ったり、吸い込んだりしているのかもしれない。	受信時:舌、口内のしびれあり、呼吸は苦しくなかった。昨日の夜は回復した。 受信時:舌、口内のしびれがある。その2時間後、しびれがおさまったため、受診せず。
7	ピレスロイド+有機リン剤	ペルメリン・MEP	全量噴射型エアゾール	一般市民	73歳	女性	経皮	用法誤り	中味が残っていた殺虫剤を捨てようとして、ガスを出そうとクギで缶に穴を開けた。殺虫剤が親指から人差し指にかかった。	受信時:患部が紫色、腫脹した。病院を受診した。処置せず帰宅した。
8	ピレスロイド剤	ピレスロイド・メキサジアゾン	くん煙タイプ	一般市民	76歳	男性	吸入	通常使用	マッチでこするタイプのくん煙剤を使用し、4時間後、換気のため窓を開けているときに吸入した。	受信時:頭痛、頭がすっきりしない。 救急病院へ受診し、経過観察した。しばらくすると症状は改善した。
9	その他	メキサジアゾン	加熱蒸散タイプ	医療機関	65歳	女性	吸入	通常使用	噴霧後2時間たつて部屋にはいつた。	下肢のしびれ、頭痛、嘔気、フラフラ感があったため救急車にて受診した。 来院時には症状が消失しており外来にて点滴した。
10	その他	メキサジアゾン	不明	医療機関	50歳	男性	吸入	通常使用	昨日の昼に市販の殺虫剤でくん煙した。3時間後に換気をした。くん煙した室内で一晩寝た。	受信時:悪心。 殺虫剤をたいしたその室内で一晩寝て、起きた時に気分が悪かった。
11	ピレスロイド剤	ペルメリン・メキサジアゾン	加熱蒸散タイプ	医療機関	1歳11ヶ月	女性	経口 (少量)	認識・判断困難	中味を出して数粒食べた。	受信時:症状なし。

表4 エアゾール剤 状況別JPIC問い合わせ件数

状況	件
誤使用	40
用法誤り	[36]
ヒト・動物近辺で使用	(12)
過量使用	(9)
食品・食器類近辺で使用	(3)
風下	(3)
噴射方向誤り	(2)
換気不良	(1)
掃除機使用	(1)
用法未確認	(1)
薬剤残存(薬剤が残った状態で廃棄)	(1)
薬剤使用を周知せず	(1)
その他	(2)
用途誤り	[4]
通常使用	3
アクシデント	2
認識・判断困難	86
意図的曝露	7
不明	8
合計	146

表5 エアゾール剤 JPICで受信した問い合わせの代表事例-1

No.	成分	成分組成	連絡者	年齢	性別	摂取経路 (量)	状況分類	状況など	症状・医療機関での処置など
1	ピレスロイド剤	イプロロリン	一般市民	1歳4ヶ月	男性	吸入	用法誤り	殺虫剤を噴霧していたら、子供が急に入ってきて、すこし顔にかけてしまった。	最初はちよっと咳込んでいた。今は異常なし。
2	ピレスロイド剤	フェトリン・テイト	医療機関	3ヶ月	不明	吸入	用法誤り	殺虫剤を少量吸入したかもしれない。顔にかけてしまった。	受信時:症状なし。
3	ピレスロイド剤	フェトリン・ファルスリン	一般市民	34歳	女性	吸入	用法誤り	至近距離で顔を近づけて使用した。	受信前:時々咳がで、喉が痛く、声が出ない。翌日受診した。微熱があったがまだ続いている。翌日受診した。微熱があった。風邪をひいているのかもしれないと言われた。声のかすれは3日でおさまり、1週間後には回復した。喉の痛みは10日ほど続き、咳は1ヶ月後も続いている。
4	ピレスロイド剤	イプロロリン	医療機関	18歳	女性	吸入	用法誤り	夜中にゴキブリが現れたため、ピレスロイド系エアゾール剤を大量に使用した。	喉の痛みがある。その後、咽頭粘膜に特に異常が認められず、外来にて経過観察した。
5	ピレスロイド剤	ファルスリン・レスマトリン	一般市民	4歳8ヶ月	男性	経口 (少量)	用法誤り	パンにハエが止まっていたので殺虫剤を多量噴霧した。パンの袋が開いていて、殺虫剤がパンにかかっていたかもしれない。そのパンを子供が食べた。	受信時:症状なし。
6	ピレスロイド剤	イプロロリン・フェトリン	一般市民	5歳	男性	吸入 (2秒)	用法誤り	母親が悪魔の虫にむけて使用したところ、殺虫剤が風によって流れ込み部屋の中にいた子供が吸入した。	胸と背中が痛い。翌々日受診したが、異常はなかった。
7	ピレスロイド剤	ファルスリン・レスマトリン	一般市民	72歳	女性	眼	用法誤り	虫を殺そうとして反対向けて噴霧し、眼にかかった。顔は石けんと水で2回洗浄し、眼はコップに水を入れ、パチパチとさせた。眼が赤くなってきた為、水道水流水で洗浄したところ、赤みは取れ、症状はなくなった。	受信前:眼の赤みあり。 受信時:なし。
8	ピレスロイド剤	ファルスリン・レスマトリン	医療機関	68歳	男性	吸入	用法誤り	閉め切ったトイレにて噴霧した。	受信時:めまい、しびれ。酸素濃度低下。点滴(強制利尿)、酸素投与を行った。
9	ピレスロイド剤	ファルスリン・レスマトリン	医療機関	74歳	女性	吸入	用法誤り	殺虫剤を外に向かかって噴霧した。掃除機をかけ、掃除機の排気から噴霧した殺虫剤を吸入したかもわからない。	受信時:息苦しさ続く。X線を3日後したが変化なし。
10	ピレスロイド剤	フェトリン・テイト	一般市民	4歳と母の2人	眼	眼	用法誤り	廃棄するため缶に穴を開けようとしたところ、中にまだ薬液が残っていたため、缶がくるくと勢いよく回って母と子の眼に薬液とガスが噴霧された状態になった。流水で眼を洗った。	受信時:特に症状なし。

表5 エアゾール剤 JPICで受信した問い合わせの代表事例-2

No.	成分	成分組成	通称者	年齢	性別	投取経路 (量)	状況分類	状況など	症状・医療機関での処置など
11	ピレスロ イド剤	イメフロリン	医療機関	19歳	動物	経皮	用途誤り	猫にノミがいたので殺虫剤を直接噴霧した。	受信時:皮膚のかぶれ、流涎がある。
12	ピレスロ イド剤	フタルシリン・レス トリン	一般市民	2歳	動物	経口	用途誤り	犬の顔に小ばえが3~4匹たかっていた。殺虫剤を噴霧してはえが死んでから顔を入れ替えてあげようと思った。顔に殺虫剤を3~4秒噴霧した。その顔を捨てる前に犬がたがべてしまった。今犬は寝ている。	受信時:症状:不明である。
13	ピレスロ イド剤	フェノリン・サリ チル酸フェニル	医療機関	43歳	男性	吸入	通常使用	使用後の部屋に入って息苦しくなった	受信前:呼吸苦。 受信時:呼吸苦は徐々に改善した。
14	ピレスロ イド剤	イメフロリン	医療機関	3歳	女性	経口 (1回噴霧)	認識・判断 困難	口の中に1回噴霧した。直後は辛い辛いと言っていたが、その後ジュースを飲ませたところ、落ち着いた。	受信時:症状なし。
15	ピレスロ イド剤	トラロトリン・ デート	一般市民	6ヶ月	男性	経口 (なめた)	認識・判断 困難	殺虫剤スプレーの口をなめたかもしれない。むせたり、苦しそうな様子はない。皮膚についた様子もない。	受信時:症状なし。
16	ピレスロ イド剤	トラロトリン・ デート	一般市民	1歳3ヶ月	男性	経口 (1回噴霧)	認識・判断 困難	口の中に自分で1回噴霧してしまった。口の中をふいて薬茶を飲ませた。	受信時:症状なし。
17	ピレスロ イド剤	フタルシリン・ ベ ルトリン	一般市民	2歳6ヶ月	男性	眼	認識・判断 困難	眼に噴霧した。一応洗った。	受信時:症状なし。
18	ピレスロ イド剤	フタルシリン・レス トリン	医療機関	6ヶ月	男性	眼+吸入+経 皮	認識・判断 困難	殺虫剤が皮膚や顔にかかってしまった。受信3時間前、3歳の姉が殺虫剤を噴霧しているのを発見した。部屋は匂いが充満しており本児の体も臭かった。相談所(詳細不明)に問い合わせたところ、眼を洗うように指導された。眼、皮膚を水洗した。	受信2時間前頃から来院まで4回少量の嘔吐があった。 受信時:無症状。来院後経過観察のみで2病日で完治退院した。
19	ピレスロ イド剤	フタルシリン・レス トリン	一般市民	10ヶ月	女性	経口 (なめた)	認識・判断 困難	殺虫剤の吹き出し口をなめたらしい。吸い込んだり吹き込んだりはしていない。	受信時:症状なし。
20	ピレスロ イド剤	フタルシリン・レス トリン	一般市民	2歳4ヶ月	女性	経口+経皮	認識・判断 困難	顔に向かってシュッと噴霧した。口のあたりが油っぽかった。なめたみたいである。洗浄し、水を飲ませた。	受信時:症状なし。
21	ピレスロ イド剤	フタルシリン・レス トリン	医療機関	34歳	女性	経口 (1回噴霧)	認識・判断 困難	薬の方が口の中に1回噴霧した。	受信時:症状なし。
22	ピレスロ イド剤	フタルシリン・レス トリン	医療機関	不明	不明	経口(不明)	意図的曝 露	昨日の夕方摂取され、中毒症状はなかったようであるが、今日気持が悪いとあって、救急で搬送された。	受信時:悪心。
23	ピレスロ イド剤	フェトリン	医療機関	24歳	女性	経口	意図的曝 露	水に長時間噴霧して、その水を飲んだ。	受信時:症状なし。

表6 うじ殺し剤 状況別JPIC問い合わせ件数

状況	件
誤使用	8
用法誤り	[6]
飲食物容器で保管	(4)
飲食物近辺に保管	(1)
保護具不適切	(1)
誤認	[2]
食品類	(1)
医薬品	(1)
通常使用	2
アクシデント	2
認識・判断困難	17
意図的曝露	31
不明	12
合計	72

表7 うじ殺し剤 JPICで受信した問い合わせの代表事例

No.	成分	成分組成	剤型	連絡者	年齢	性別	摂取経路 (量)	状況分類	状況など	症状・医療機関での処置など
1	有機塩素系殺虫剤	ODB・クレゾール	液体	医療機関	57歳	不明	経口 (30~100mL)	用法誤り	茶色の液体、クレゾールのような刺激臭がある保蔵所で配ったうじ殺し剤を飲んだ。うじ殺し剤はペットボトルの容器に入っていたので、間違えて飲んだが故意なのか不明である。家の人が発見した。受信時はまた聞きなので正確な製品名は不明であったが、その後、製品名・成分がわかった。成分: ODB、クレゾールであった。	受信前:意識がはつきりしない。喘鳴、皮膚体温の低下。 受信時:胃洗浄後意識が少し回復した。喘鳴、皮膚体温の低下。
2	有機リン系殺虫剤	フタルスリン・MEP	液体	医療機関	71歳	男性	経口 (1口)	用法誤り	うじ殺し剤は、町内会で小分けをしていたのでラベルがない。成分はフェニトロチオン5%、フタルスリン0.5%である。	受信時:発汗気味。
3	有機リン系殺虫剤	DDVP・ダイジン・ODB・クレゾール	液体	一般市民	83歳	女性	経口 (なめた)	用法誤り	口の開いたビールビンに白濁した液体が入っていたので、何かかと思いきや口にしましたが、びりりときたので、すぐ吐き出した。飲んでいない。口をゆすいた。	受信時:外で洗濯物を干しているのに、なんとなく様子である。
4	不明	不明	液体	医療機関	60歳	男性	経皮	用法誤り	うじ殺し剤に手を着けた。しばらくうじ殺し剤のそばにいた。	受信時:ひりひりしている。
5	有機リン系殺虫剤	DDVP・ダイジン・ODB・クレゾール	液体	医療機関	31歳	男性	経口 (10~20mL)	誤認	クレゾール入りうじ殺し剤を水と間違えて飲んだ。	受信前:嘔吐。 受信時:下痢。 息苦しさがあり、病院で点滴中である。
6	有機リン系殺虫剤	DDVP	液体	医療機関	1歳	不明	経口	認識・判断困難	家庭用殺虫剤乳剤を誤飲した。自治体で配布したものである。	胃洗浄中である。
7	有機リン系殺虫剤	DDVP・ヒリガ・フェチオン	液体	医療機関	83歳	女性	経口	認識・判断困難	口に含んでばきだした。	悪心、縮瞳あり。胃洗浄を行い硫酸アトロピン投与により改善した。
8	有機塩素系殺虫剤	ODB・クレゾール	液体	医療機関	59歳	男性	経口 (300mL)	意図的曝露	うじ殺し剤を摂取した。	受信時:不穏、縮瞳。病院で挿管、利尿中である。
9	有機リン系殺虫剤	DDVP・MEP	液体	医療機関	48歳	女性	経口 (不明)	意図的曝露	コップに薄めたうじ殺し剤が8割位は残っているが、摂取量は不明である。	受信時:意識レベルの低下(JCS III-300)、過換気になったり呼吸抑制になったりしている。治療はまだ開始していない。
10	有機リン系殺虫剤	DDVP・MPP	液体	医療機関	68歳	女性	経口 (盃1杯)	意図的曝露	発作的にのんだらしい。盃一杯分位飲んだと言っている。一時間後受診した。全身状態も安定、意識清明だったので胃洗浄せず帰宅させた。今日再度外来へ受診した。	受信前:意識レベルJCS I-3、唾液多少増加していた。病院で胃洗浄(10L)、活性炭投与を行った。
11	有機リン系殺虫剤	MPP	液体	医療機関	80歳	女性	経口 (200mL)	意図的曝露		受信前:喘鳴。 受信時:乏尿(点滴しても尿が出ない)、喘鳴。 胃洗浄、活性炭投与を行った。
12	有機リン系殺虫剤	DDVP・ダイジン・ODB・クレゾール	液体	医療機関	34歳	男性	経口 (約コップ1杯)	意図的曝露	昔戲から下痢気味だった。下痢を止めるためうじ殺し剤を飲んだ。	受信時:意識レベルJCS I-3、唾液多少増加していた。病院で胃洗浄(10L)、活性炭投与を行った。

表8 くん煙剤・全量噴射型エアノール試買製品の表示内容-1

No.	対象害虫	種類	剤型	製品本体		使用方法		"くん煙中に入室"の防止		"食品・食器類近辺で使用"の防止		"ヒト・動物近辺で使用"の防止		噴射までの時間	はり紙の有無		
				製品名	会社名	成分	イラスト	強調	内容	イラスト	強調	内容	イラスト			強調	
1	衛生害虫	医薬品	くん煙タイプ	キンチョウ ウジエツト煙タイプ	大日本除虫菊 株式会社	有効成分: フェトリン5.0%, メトキサジアゾン4.0%	○	×	煙が出始めたら部屋の外へ出てください。くん煙途中で、部屋に入らないでください。	食品、食器、小皿のおもちゃ、ペットの飼料などに煙がかからないようにしてください。観賞魚、犬、猫や小鳥などのペット類、お香や鉢植え、花木などの観賞植物は部屋の外へ出てください。大型の観賞水櫃などがあるところでは使用しないでください。容器、衣類、座布団、クッション、ぬいぐるみなどはあらかじめに移すか、ビニールシートや新聞紙などでカバーをし、直接煙が触れないようにしてください。	×	○	煙を吸い込まないように注意してください。	×	○	数秒後に噴射が開始、その後約30秒間煙が出ます。	×
2	衛生害虫	医薬品	くん煙タイプ	バルサ SP ジェット	中外製薬株式会社	有効成分: メトキサジアゾン5%, ベルメトリン4%	○	×	煙が出はじめたら部屋の外に出ると。	食品、食器、おもちゃ、飼料、寝具、衣類、観音、仏壇、仏具、美術品、薬品、薬箱などは、直接煙が触れないようにすること。また、ペット、観賞魚、植物は、部屋の外に出すこと。観音、仏壇、仏具、美術品、薬品、薬箱などは直接煙が触れないように取替するか、ビニールシートや新聞紙でカバーをする。あるいは部屋の外に出してください。(イラスト)	×	○	煙を吸い込まないように注意すること。	×	○	数秒後に煙が出始め、その後約20~30秒間煙が出ます。	○
3	衛生害虫	医薬品	くん煙タイプ	バルサ SX ジェット	中外製薬株式会社	有効成分: メトキサジアゾン5%, フェトリン2%	○	×	煙が出はじめたら部屋の外へ出てと。	食品、食器、おもちゃ、飼料、寝具、衣類、観音、仏壇、仏具、美術品、薬品、薬箱などは、直接煙が触れないようにすること。また、ペット、観賞魚、植物は、部屋の外に出すこと。観音、仏壇、仏具、美術品、薬品、薬箱などは直接煙が触れないように取替するか、ビニールシートや新聞紙でカバーをする。あるいは部屋の外に出してください。(イラスト)	×	○	煙をなるべく吸い込まないように注意すること。	×	○	数秒後に煙が出始め、その後約20~30秒間煙が出ます。	○
4	衛生害虫	医薬品	加熱蒸散タイプ	アースレットW	アース製薬株式会社	有効成分: メトキサジアゾン12.0%, d-d-T-シフェノリン3.0%	○	×	缶をセットしたら、部屋の外に出てください。缶をセットしたら、部屋の外に出て戸をしめきってください。	飲食物、食器、子供のおもちゃ、飼料などに薬剤がかからないようにしてください。また、観賞魚や小鳥などのペット類、観賞植物は部屋の外に出してください。観音、仏壇、仏具、美術品、薬品、薬箱などは直接煙が触れないように取替するか、ビニールシートや新聞紙で覆うなどしてください。	×	○	薬剤を吸い込まないように注意してください。	×	○	約1~2分で蒸散がはじまります。	×
5	衛生害虫	医薬品	加熱蒸散タイプ	ゴキアースレット	アース製薬株式会社	有効成分: メトキサジアゾン20.0%	○	×	缶をセットしたら、部屋の外に出て戸をしめきってください。	飲食物、食器、子供のおもちゃ、飼料などに薬剤がかからないようにしてください。また、観賞魚や小鳥などのペット類、観賞植物は部屋の外に出してください。観音、仏壇、仏具、美術品、薬品、薬箱などは直接煙が触れないように取替するか、ビニールシートや新聞紙で覆うなどしてください。	×	○	薬剤を吸い込まないように注意してください。	×	○	約1~2分で蒸散がはじまります。	×

表8 くん煙剤・全量噴射型エアソール試買製品の表示内容-2

No.	種類	対象害虫	剤型	製品本体		"くん煙中に入室"の防止		"食品・食器類近辺で使用"の防止		"ヒト・動物近辺で使用"の防止		噴射までの時間	はり紙の有無		
				製品名	会社名	成分	使用方法	イラスト	内容	イラスト	内容			イラスト	内容
6	加熱蒸散タイプ 医薬品	衛生害虫	ダニ アース レッド	アース製 薬網	有効成分:フェ ノトリン14.0%,メ トキシサジアゾン 8.0%	イラスト	内容	イラスト	内容	イラスト	内容	約1~2分で 蒸散がはじま ります。	×		
7	加熱蒸散タイプ 医薬品	衛生害虫	水では じめる バルサ リダニ	中外製 薬網 売、永光 化成網 製造	有効成分:外 キサジアゾン1 0%,フェノトリ ン4%	イラスト	内容	イラスト	内容	イラスト	内容	約30秒で煙 が出はじま ります。	×		
8	全量噴射型エアソール 医薬品	衛生害虫	アース レッド ンス モー クタイプ	アース製 薬網	有効成分:ベル メトリン1.00g、メ トキシサジアゾン 0.75g 1缶 (90ml)中 高圧ガス:DME	イラスト	内容	イラスト	内容	イラスト	内容	ペダルを踏む と同時に薬 剤が噴射しま す。	×		
9	全量噴射型エアソール 医薬品	衛生害虫	キンチョウ ウンジョ ト露タイ ブ	日本 除虫菊 除菌 剤	有効成分:1缶 (60ml)中:メトキ サジアゾン 0.75g、ベルメ トリン1.0g 高圧ガス: DME、窒素	イラスト	内容	イラスト	内容	イラスト	内容	噴射が始ま るまでに約1 0~20秒の 時間がありま す。	×		

表8 くん煙剤・全量噴射型エアソール試買製品の表示内容-3

No.	対象害虫	種類	剤型	製品本体		"くん煙中に入室"の防止		"食品・食器類近辺で使用"の防止		"ヒト・動物近辺で使用"の防止		噴射までの時間	はり紙の有無					
				製品名	会社名	成分	使用方法	内容	イラスト	内容	イラスト			内容	イラスト			
10	衛生害虫	全量噴射型エアソール	医薬品	殺のバ ルサン ダニ	中外製 薬商義 売、桐夕 イノー製 造	有効成分: 46.5g中メトキソ ジアント1.25g、 フエントリン0.5g 高圧ガス:DME	イラスト ○	ポタンを押すと同時に上方へ薬剤が噴射するので、顔を近づけないように注意すること。(イラスト) 押込むと同時に上方へ薬剤(霧)が噴射し始めますので、直ちに退室して下さい。(イラスト) 本剤噴射後、1~2時間またはそれ以上部屋を閉め切った状態で置いて下さい。また、この間、部屋に入ることは避けて下さい。	イラスト ×	食品、食器、おもちゃ、飼料、寝具、寝具、貴重品、衣類、金庫、薬箱等は他へ移すか、収納すること。ビニールシートや新聞紙で覆い、直接薬剤がかからないようにすること。また、ペット、観賞魚、植物は、部屋の外に出すこと。 本剤が直接プラスチック製品にからぬよう新聞紙等で覆って下さい。ペット、観賞魚、植物は部屋の外に出して下さい。	イラスト ×	薬剤をなるべく吸い込まないように注意すること。と。 人体に向けて噴射しないこと。 ポタンを押すと同時に上方へ薬剤が噴射するので、顔を近づけないように注意すること。(イラスト)	イラスト ○	×	押込むと同時に上方へ薬剤(霧)が噴射し始めます	×		
11	不快害虫	全量噴射型エアソール	雑品	フマキ ラマ 室ま めて	フマキ ラー機	成分:ピレスロ イド系殺虫剤、 樟脳抽出物、 グレープフルー ツ種子抽出物、 有機酸系消臭 剤 高圧ガス:LPガ ス エタノール	イラスト ○	噴射開始後、直ちに退室していただき、本剤を噴射した後、30分間部屋を閉め切った状態にしてください。この間、部屋に入ることは避けて下さい。	イラスト ×	飲食物、食器、おもちゃ、衣類などは、他の場所に移すか、新聞紙などで全体をおおってください。ペット、壁、家具、仏壇などは、薬剤の外に出してください。プラスチック製品、家具、仏壇などは、新聞紙などで全体をおおってください。美術品、オーティオ製品、パソコン、ビデオなどは、カバーをかけてください。	イラスト ×	人体に向けて噴射しないこと。薬剤(霧)を吸い込まないように注意すること。	イラスト ×	×	ポタンを押すと同時に斜め上方に薬剤(霧)が噴射し始めます。	×		
12	不快害虫	全量噴射型エアソール	雑品	虫コロリ ア ンク モーク 霧タイプ	アース製 薬商	有効成分:エト フェンプロック ス、プロボクス ル 高圧 ガス:DME	イラスト ○	ペダルを踏むと同時に薬剤が噴射します。また、部屋の外に出して下さい。また、ペダルの真上に顔を近づけないでください。 薬剤が霧状になって噴射しはじめますので、直ちに部屋から出て下さい。また、部屋を閉め切った状態にしてください。また、この間、入室することは避けてください。	イラスト ×	皮膚、飲食物、食器、子供のおもちゃ、飼料、衣類などに薬剤がかからないようにしてください。また、観賞魚・小鳥などのペット類、観賞植物は部屋の外に出して下さい。 観賞魚は1日は持ち込まないでください。(イラスト) 飲食物、食器、子供のおもちゃ、飼料、衣類、透明なプラスチック製品、美術品、仏壇仏具などは直接薬剤がかからないように、ポリ袋に入れろるか、新聞紙で覆うなどして下さい。(イラスト)	イラスト ○	人に向かっ噴射しないでください。また、薬剤を吸入しないでください。	イラスト ×	ペタンを踏むと同時に薬剤が噴射します	イラスト ×	×	ペダルを踏むと同時に薬剤が噴射します	×
13	不快害虫	全量噴射型エアソール	雑品	ワイバ ア害虫 イナイ &コナイ	株白元	有効成分:フェ ノトリン(ピレス ロイド系)	イラスト ×	薬剤が霧状になって噴射しはじめますので、ただちに部屋から出て下さい。本品を噴射した後、1~2時間間は、部屋を閉め切った状態にしてください。また、この間、入室することは避けてください。 ポタンを押すと同時に薬剤が噴射します。また、部屋の外に出して下さい。また、ペダルの真上に顔を近づけないでください。	イラスト ×	アレルギー一症状やかぶれなどを起こしやすいため、特に薬剤を吸い込んだり触れたりしないでください。	イラスト ×	×	ポタンを押すと同時に薬剤が噴射します	×				

*:強調表示は下線で示した。

表9 エアゾール剤 試買製品の表示内容-1

No.	対象害虫	種類	製品名	会社名	成分	用法・用量		事故防止の注意点		"過量使用"防止		備考		
						内容	具体的な散布方法	イラスト	強調	イラスト	内容		イラスト	強調
1	衛生害虫	医薬品	バエコソフ	中外製薬 株式会社 バイエル 薬品納製 スリン(ピレスロ イト系)0.3g 高圧ガス: DME/LPG	有効成分(1缶 中)プロボクスル (カルバメート 系)3.0g、フタル スリン(ピレスロ イト系)0.3g 高圧ガス: DME/LPG	○	○	×	×	×	×	説明をよく読み、定められた 使用方法を守ってお使いくだ さい。 定められた用法及び用量を 厳守すること。	○	
2	衛生害虫	医薬部外品	アース ジェットH D	アース製 薬株式会社	有効成分:d- T80-フタルスリ ン、d-T80-レス メトリン(ピレス ロイト系) 高圧ガス:LPガ ス/DME ケロシン	○	○	×	×	×	×	定められた使用方法・使用量 を守ってください。	×	
3	衛生害虫	医薬部外品	キン チョール	大日本除 虫薬株式会社	有効成分:ピレ スロイド(d-T80- フタルスリン、 d-T80-レスメ トリン) 高圧ガス: LPG、DME ケロシン	○	×	○	×	×	×	定められた使用方法を必ず守っ てください。 規定時間(秒)以上噴射しな いで下さい。	×	
4	衛生害虫	医薬部外品	ゴキジェット P(ゴキ ジェット P)	アース製 薬株式会社	有効成分:イミ プロリン(ピレ スロイド系) 高圧ガス:LPガ ス/DME ケロシン	○	○	×	×	×	×	定められた使用方法・使用量 を厳守してください。 (連続して使用する場合は1 本以内にとどめてください。 可燃性ガスが燃焼するおそ れがあります。)	×	

表9 エアゾール剤 試買製品の表示内容-2

対象害虫 No	種類	製品名	会社名	成分	用法・用量		事故防止の注意点		過量使用防止		備考		
					内容	具体的な散布量	内容	イラスト	内容	イラスト		内容	イラスト
5	衛生害虫 5	水性コックロ-チ クロ-チ S2	大日本除虫菊株式会社	有効成分:ピレトロイド(イミプロトリン、フェノトリン)、フェノトリン) 高圧ガス:LPG	正面の噴射ノズルを引き上げ上部の黒いボタンを押すと、害虫が噴射されます。 害虫に直接噴射、約60cm以内の距離から約1~3秒間噴射してください。 噴霧器を、害虫の通り道にあらからじめ噴霧器を布しておいても効果があります。噴霧器の噴霧距離は約15~30cmの距離から等様に、十分に噴霧する程度【1㎡あたり約45~60秒(約20~30ml)に噴霧器を布してください。】	○	○	人体に当たって噴射しないでください。又、噴霧器を他人に渡さないでください。 皮膚、飲食物、衣類、おもちゃ、ペット類(観賞魚、小鳥など)、植物、飼料にからないようにしてください。 噴射中、噴射する人以外の入室を避け、噴射後室内の空気を換気して入居してください。	×	×	定められた使用方法を必ず守ってください。	×	
6	衛生害虫 6	ダニアースJ	アース製薬株式会社	有効成分:フェノトリン(セレスロイト系)、サリチル酸フェニル、高圧ガス:DME、ケロシン	【タミへの処理】内部への注入はノズルをこし、専用の針を量に刺して、1カ所3秒の割合で、1量につき6カ所以上に注入噴射してください。 表面処理は、ノズルを傾斜のまま、40~50cmの距離から1量あたり約30秒(1㎡あたり約15~20秒)の割合で噴射してください。 【カーペット、振動などへの処理】表面処理は、ノズルを傾斜のまま、40~50cmの距離から1㎡あたり約10秒(1量あたり約15秒)の割合で噴射してください。 カーペットの中、ノズルを直角に起こし、背のボタンをキャップからはずす。背のボタンについている透明のドミコルカバーをつけたまま奥まで押し込み、背のボタンを押し曲げたまま、レバーボタンを押して噴射する。このとき近くから扇形的にたぐさみ噴射しないよう40~50cmはなして均一に処理する。	○	○	皮膚、飲食物、衣類、子供のおもちゃ、観賞魚、小鳥などのペット類、飼料、観賞植物にからないようにすること。 アレルギーやかぶれなどを起こしやすい体質の人は、薬剤に触れないようにすること。また、噴射気体を吸入しないこと。 噴射中は室内を開放して、噴射する人以外は退室し、噴射後は十分換気してから入室すること。	×	×	定められた使用方法・使用量を守る。	×	
7	不快害虫 7	アリストツバ バー (ムースタイプ)	朝日電器株式会社	有効成分:プロポクスル(カーバメイト系) 高圧ガス:LPG	使用前に必ずよく振ってから、缶を逆さまにして使用してください。 1m以内の約2秒を目安に適宜使用してください。	○	×	室内では使用しないでください。 人体に向かかって噴射しないでください。 魚のいる水槽や池、ペット類、植物にからないようにしてください。	×	○	説明をよく読み、定められた使用量を守ってお使いください。 定められた用法用量を守ってご使用ください。	×	
8	不快害虫 8	カダンハン チ-アップ ジェット	フマキラー株式会社	有効成分:d-T80-フタルスリリン、d-T80-レストリン 高圧ガス:LPG	缶をよく振ってから、屋外の害虫に向けて1~4mの距離から適量を噴射してください。(本品はジェット噴射のため、約40秒間で全量が噴射されます。)	×	×	室内では使用しないこと。 噴射場所の回り、特に風下に人がいないことを確認し、風上から噴射すること。 噴霧が風の影響を受けるときは使用をさげること。 本品は噴射力が強く噴霧が遠くまで届くので取り扱いに注意すること。 人体に向けて噴射しないこと。また、噴霧を直接吸入しないこと。 アレルギー症状やカブレなどを起こしやすい体質の人、妊婦などは、薬剤に触れないようにすること。 金魚、観賞魚、小鳥などのペット類には、噴霧がかからないように注意すること。	×	×	定められた使用方法を必ず守り、使いすぎないようにすること。	×	4m以内の風速に速く約4m)までスプレーできるジェット噴射タイプ